

東由利村報

No. 104 1966・2・10

発行
東由利村役場
編集
畑山伝二郎
印刷
KK本間印刷所

昭和41年度家畜市場

日割予定表(台山)

4月	4月20日
7月	7月2日
9月	9月1日
11月	11月11日

第1回村議会臨時会

職員給与条例を改正

国家公務員に準じて引上げ

1月14日東由利村議会臨時会は役場に招集された。

▷議案第1号、一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について

提案理由の説明

昨年12月27日国家公務員の給与制度の改正が行われ、これに準じて地方公務員の給与改正を行い、全国平均では現行給料月額より6.4%の引上げではあるが、本村は10.8%の引上げとなる。これに伴い諸手当も引上げられる。

(原案どおり可決)

陳情書(1) 教具の補充についてお願い(袖山小学校)
楽器その他404,400円

(原案採択)

陳情書(2) 消防ポンプ更新についてのお願い(黒沢)

これまでのポンプは使用出来なくなったので、10馬力小型動力ポンプを備え付けた

い。附属品共26万円の半額補助をお願いしたい。

▷小野作右工門議員より、地理的に孤立している黒沢部落のことであるから、特に取急ぎ整備する必要がある。

(原案採択)

無火災を誓って

1月6日・消防団の出初式

1月6日本村消防団恒例の出初式は老方小学校々庭で挙行された。人員報告・観閲の後消防団に対する「天皇陛下のお言葉」の奉読あり、村長の訓辞「昨年はこの式場で無火災を祈願したが、新年早々火災があり誠に残念に思った。しかし火災はこの1件だけでその後は無事に過ぎた。

本日は消防団員350名中欠場者は90名でその大部分は出稼者である。出稼の是非はしばらくおく。出稼に出なくと

もすむような豊かな村をつくるために総力を結集すること、あくまでも村民の生命財産を守り抜く決意を新たにするように希望する。」

ついで次のとおり、表彰状及び感謝状の贈呈が行われた
①30年勤続表彰—知事—第1分団長・佐藤留吉▷20年以上同—知事—太田千代三・小松留七・千葉欽一・岳石義助・佐藤昇・佐々木一郎・鈴木政美・畠山淳悦・佐藤薫・佐々木藤喜・鈴木昭一・佐藤公一

・千葉千代造・畠山親保・畠山泰蔵・小松薫

▷消防施設協力者表彰—知事—梅津二三雄・佐々木君三・小野順治▷消防協力機関表彰—知事—館合婦人消防隊▷15年勤続表彰—協会長—小松一正外16名▷10年勤続表彰—協会長—長谷山松記外21名▷模範団員同—村長—岳石喜市外13名▷甲種精勤章—団長—佐藤松喜外21名▷乙種精勤章—団長—佐藤兵太郎外17名▷退職団員賞状伝達—消防庁長官—畑山実・長谷山二郎▷感謝状贈呈—村長—元館合婦人消防隊長尾形艶▷少年消防クラブ表彰—村長—上里少年消防クラブ・畑村同

る。そしてそれは我が村でもやれることである。

【青年がわの意見】

◎根性が足りない、気力が弱いというけれど、日々の仕事を通してはげみになるような事が足りない。その

らしい経営をしようとしても、親がブレーキになってやれない。

◎新しい事業を開発するには、個人の意欲が第一ではあるが、村・殊に農協の指導部が充実し、技術面と共に資金の面も解決出来るようにならなければ、意欲があっても動けない。

◎新しい農業は単に生産の面ばかりでなく、企業としての面ばかりでなく、企業としての面から経営の研究に努力すべきだ。

第一は農業という仕事の性質上、今の仕組みでは自分の労働価値を評価することが出来ない。従って他の労働者のようなはづみがない

◎若い者が色々研究して新

1月8日青年会幹部を主とする男女青年15名と、村側からは村長・議長・助役・教育長・経済課長・農協参事などが会同して村づくり懇談会をもよおした。

先づ村長から、村づくりの方針・これまでやって来た施策・これからやって行く計画についての説明があり、その結果をかえりみるに、その計画が順調にのびないものがある。これは村民性のモロさ、物事をやり通す気力の乏しいところにあると思う。やろうとする気力さえあれば、村の未利

用資源は無限である。今までやって来た村づくりに花を咲かせ実を結ばせる意味に於て意義ある話し合いをしたい。」ついで議長より「今年の7月は新村11週年の記念日と、農協合併を祝

青年会と村との懇談会

◇◇◇ 村民性のモロさが問題 ◇◇◇

う日と一しょにしたい。農村の嫁ききんは全国的な問題だが、神奈川・大分・宮崎県などには、農家経営が成功したことにより、嫁の希望者が多すぎるところもあ



大平スキー場に 宿舎建設

本村宿字下吹地内に昨年新設された大平スキー場は交通の便を始め各種の条件に恵まれているので、新設早々の昨年から広く郡内外

の方々に利用されることになったが、宿舎がないため附近住民の好意による民泊にたよって漸く間に合せるような不便をかこっていた

が、これを聞いた同部落出身、東京電業社長小野仁助氏は「速急にこの不便を解消すべきである」と、下吹部落の実兄小野静雄氏・部落有志小野寅松氏・畑山清一氏・小野三郎氏・遠藤二三雄氏などにすすめて、昨年12月、300万円を10カ年無利子で貸与し、突貫工事でスキーシーズンに間に合せることにし、54坪の宿舎を建て、旅館飲食店の正式許可も受けた。

この宿舎は30人宿泊の施設と、水道、電灯、風呂の設備があり、運営の一切は下吹部落があたっており、深く利用者に喜ばれている。

佐藤謙吉議員 ①統合中学校建設計画について②昭和40年度官行造林分収財源について。

阿部村長 ①中学統合の財源は官行造林にたよらなければならないが、当初村内官行造林の見積は約3億円、従って村の収入はその半分と見積っていたが、営林署の計算では、はるかに下まわっているため財源の見込みはた

なくなった。統合の計画には変りはないが速かなる実施は望めない。今一つは財政の豊かでない自治体に対して国の大巾の補助を望んでいる。②官行造林よりの収入は来年度以降の事業にまわる。

小松豊議員 ①中学校統合の根拠

小松教育長 ①県の方針、生徒数の激減、同一学校で学ぶことによる全村民意識を高める。

長谷山千代蔵議員 ①へき地暫定1級指定の廃止により以後の教職員の異動に影響がないか。②今春以来上級機関

がへき地教育の実態調査をしているがその結果は。③学校薬剤師の活用について。

小松教育長 ①へき地暫定手当の廃止は全国的なので存続を陳情中である。本村での1級廃止該当校は宿小学校で

約束は県との間に取付けてある。公共事業としての永久橋かけかえは強力に県との間に話し合いを進めている。

②出稼は最近の実態調査によれば552人、村の産業開発には相当に手を打ち金もかけて来たがなかなか効果があがらない。住民には自主的に働く努力を、農協には物心両面の積極的な指導援助を望む。

長沢毅議員 ①草地育成について、尿撒布機の利用効果とその導入状況

産経課長 機械の導入はしたが、尿の運搬設備がととのわないために効果をあげるまでにはいたらない。

伊東与吉議員 ①小中学校の冬期休業中、子どもの遊び場として雨天体操場を解放出来ないか。②下郷中学校の生徒職員の通学のため横渡に急行バスの停車を要請することについて。

小松教育長 ご要望はもっともなことだと思う。が学校の管理は校長の権限なので、

□□ 定例村議会一般質問から □□

統合中学校建設の見とおし

沖田橋架替など要望

12月20日開かれた定例村議会で、中学校統合の問題などをめぐって一般質問が行なわれたが、要旨は次のとおりである。

教職員異動には影響が大きい②へき地学校に対する上級機関よりの要望は、用務員をおくこと。完全給食を実施すること。③学校薬剤師には手当と車代を予算化している。

川尻幾郎議員 ①冬期交通に関して、田代沖田橋が不完全なため、ブルドーザーが渡れないので橋より奥の冬期交通は非常に困難である。41年度中に永久橋にかけかえる見通しはないか。②出稼が非常に多い村としての産業対策について。

阿部村長 ①沖田橋より奥の冬期交通の確保についての

よく相談して善処したい。

阿部村長 ②交渉はして見るけれども羽後交通の全般的計画から見て困難だと思う。

佐藤要次議員 ①予算編成を前にして需要費の節減をはかられたい②食糧費の節約について。

阿部村長 ご要望にそうよう努力する。

今年は午(ご)の年

今年は午(ご)の年です。午については中国の古書に「太陽午に盛んなり、午は物の満つるなり」とある。方角でいうと午は十二支の7番目で正南に位する。時でいうと午は12時にあたる。四季でいうと仲夏、24節気でいうと夏至(6月22日)にあたる。

要するに午は1年の中で陽気が極大で、陰気が極小のときを示したものであるから、自然の植物の生育が盛んで満ち足りることをあらわしたものであって、本来馬とは何の関係もない文字である。

しかるに中国の前漢の時代(凡そ2千年前)に十二支に12獣を配して絵ごよみをつくり(北方の文字を知らない国民にくばった。たまたま「午」のところに馬があたったので「午」をうまと読み「午」の年を馬の年として、馬の性格にちなんだかいしやくをするようになった。文化の発達した今日まことに不合理なことであり、いわんやひのえうまの迷信などはなんの根拠もないことである。(佐藤政次氏年賀状より)



村長を囲む部落座談会

黒淵と住吉で



写真に村長を囲んで話
しあう黒淵地区の人々

御用始めの1月4日、本年
第1回の部落座談会は、村長
経済課長など出席の上に、黒
淵会館と住吉小学校で開かれ
た。村長の村政に関する詳細
な説明の後次のような地域の
要望があった。

- ①智者鶴会館を再建してほしい。
- ②高等学校入学者のため本荘
に寮を建ててほしい。
- みんなが金を出し合ってや
ろうというのであれば、村
長も考えるが、どの程度利
用するか、今後研究する。
- ③智者鶴までブルを入れるよ
うにしてもらいたい。
- やる。
- ④黒淵地区に修路夫を置いて
ほしい。
- 黒淵地区に置けば全線から
要望して来るのでとてもや
り切れない。
- ⑤大橋場橋を修理してほしい
○応急修理をする。
- ⑥葦沢の道路に砂利を入れる
ように
- ⑦智者鶴の牧道に補助してほ
しい。
- 未設計である。
- ⑧スノーブルを買いたいから
補助してほしい。
- 努力して見る。
- ⑨3月末頃各部落にブルを入
れてほしい。
- 各部落といってもはいれな
いところもある。出来るだ
けは入れる。

理学博士

本村で7人目

老方出身畠山洋二氏は兼ね

て東北大学に博士論文「数学
の微分幾何」を提出中のとこ
ろ教授会を通過し、去る11月
17日理学博士となった。

同氏は故畠山軍治氏の長男
で本年34歳、近く弘前大学の
教授に就任するとのことであ
る。

なお当村の博士は、老方長
谷山誠一郎氏・長谷山博氏・
小松誠氏・小松三夫氏の各医
博と、阿部広雄氏（農）佐藤
政次氏（文）の各氏について
7人目である。

家庭の日

毎月第3日曜日は家庭の日。
話し合い・協力・たのしみを
内容に計画しましょう。

楽しい装飾手芸

服装デザイン画家来村

1月7日見なれない服装の
人がフラリと役場にやって来
た。会ってお話を聞いて見る
と、「服装デザイン画家」と
いう聞いたことのない職業で
長野県出身の中曾根英明とい
う方だそうだ。

生活と色彩の研究で全国を
めぐってあるく途中に立寄っ
たということで、婦人の衣服
や家庭の生活に、色彩に対す
る自主性がないとあたるべか
らざる勢である。

役に立たない小切れでも色

郷里秋田は今寒い冬のこ
とでしょう。当ブラジルは
作物の一番のびる熱い時で
す。

もう早いものでブラジル5
年になりました。気候その
他色々となれまして毎日元
気でいる故ご安心下さい。

当地日本新聞・ラジオで
大体日本の様子はわかりま
す。それに日本に行って来
た人の話でもわかります。
みんな日本の税金の高いの
にはおどろいています。

小生最初は北パラナ州の
カフェー園に入り働らきま
したが、子どもが小さいの
でひどい目にあいました。

今考える

とよい薬

になった

と思いま

す 全くひどかった。それ
でも一度はコロノというの
をやらなければ一人前にな
れません。そこをなんとか
切りぬけて今は北パラナの
大都市ロンドリーナの近く
16キロの土地で綿作りをし
て居ります。綿作りも4年
目になってその間に女の子
が2人生まれました。気候
がよいので子どもが大きく
なるのが早く日本より育て
るのが楽です。

パトロン（地主）は和歌山
県の人でブラジル在住35年
以上2000アルケールの大地
主です（アルケール24町歩
）。自分は今年7アルケ

ル綿をつくっております。
日本の150町歩、本当と思
われないでしようがやれる
しやっております。掘るに
はトラクター、種まきと草
取は馬ですが、畑が広いの
でよい馬でないと役に立た
ないので、5万円と6万円
の馬を2匹買いました。16
万円で日本の共立の自動式
噴霧撒粉機も買いました。
秋の取入れには6、7家族
もやとって家をたててやっ
たりよく面倒見て働らいて
もらいます。その外に多い
時は5、60人もの人をやと
います。

ざっと5・6百万円の収入

が、あり

ますが土

地代や諸

経費全部

を支払うと50万円位しか残
りません。

どうしても自分の土地を
求めなければ一人立ちは出
来ません。ブラジルでは自
分の土地50町歩以上、トラ
クター・トラック・自家用
車1台ぐらい持たなければ
一人前ではありません。家族
だけの働らきでそれまでに
なるには仲々よいでありま
せんが、先を楽しみにが
んばっています。

はじめはずいぶんなんぎ
をしましたがブラジルに來
てよかったと思っていま
す。

わたり、その手法も多種多様
で、これが廃物から生れた作
品かと目を見張るばかりであ
る。この度作っただけでなく
手をつないでよその人の作っ
た物を参考にし、創意をこら
して製作にはげめば、やがて
は村の特産を生み出せないも
のでもない。中曾根氏も「こ
の村の人々は至極気に入った
物になるまで、必らず毎年來
る。」と云って帰られた。

小松主事は中曾根先生に自
分のうちにとまってもらって
けん命に習ったので、一通り
の指導が出来るし、冬になっ
て先生の来るまでには展示会
の出来るまで盛りあげたいと
云っている。

彩の調和をはかれば、立派な
芸術品が出来るといふ。實際
に指導してもらったことにな
った。蔵・老方・小倉・住吉・
館合の婦人達に講習してもら
った。

ほんの2、3日滞在のつも
りであったのが、婦人達の熱
心と小松主事との親しみによ
り、2週間にわたって実に熱
心に指導をつづけてくれた。

この間につくられた作品は
スリッパ・ノレン・壁掛・人
形・風りん・その他数十種に

新らしい青年の役割求めて

第1回東由利青年祭

東由利青年祭は1月22・3日(1泊2日)玉来小学校で、お互の理解をとおして親和を深め、郷土社会の発展にふさわしい青年たることを目ざして開催された。

内容は、「村政を語る」村長。「現代青年に望む」公民館長。分科会「ガール・ボーイフレンド」。レクレーション。で大成功をおさめた。

村長講演

現在までの村政の経過と将来の計画を聞き、質疑応答によって理解を深め、村政への協力の決意を新たにした。

公民館長講演

50年前の青年団活動の3綱領
1 社会に対し尊き汗を流す。
2 親に対し熱い涙を流す。
3 租国のために尊い血を流す
自分以外のものに奉仕しよう！をモットーに精神的規制の強いものであった。

たとえば青年団の植林は自分達の組織のために使うのではなく、地域社会全体の福祉に役立てようという信念であ

った。これに対し色々な角度から話し合いをした。

分科会

人間としての心のふれ合いがあり節度のある男女間の交際を友だちと考えて次の3段階をきめた。

- ①気楽に話し合える程度
- ②同性間の交りと同様に何んでも打ち明けて話せる程度
- ③恋愛関係にあるもの

①はよい傾向であり問題はない。②は最も望ましいこと

であるが多くの場合お互心の成長を待たずに③に移り易い③は問題にする要なし。ただお互にしっかりした自信を持ち、あくまでも節度のある正しい交際であらねばならぬ。

レクレーション

秋田大学体育科講師茂泉陽子先生の明るく積極的な指導により十分に楽しませていただいた。先生のことは「誰でも何かを考えているのだ。より多くの人を知り、そして誰とでも、いつでも話せる人になりたい。そして、その中から自分を見つめて行きたい。」

優良赤ちゃん表彰式



40年度春季・秋季赤ちゃんコンクール入賞者の表彰式は1月20日役場で行われた。

見るからにかわいらしい赤ちゃん達がチョコチョコ走りまわったりするので美しくたのしい

ひと時であった。

後の話し合いでわかったことだが、入賞赤ちゃん11人のうち10人までおばあちゃんがいるということは、少なからず考えさせられることである
表彰を受けた赤ちゃんは次のとおりである。

【春季】小松達他(大琴・仗太郎長男)遠藤良悦(新処・六郎二男)工藤悦子(新処・勇典長女)古関香苗(新町・金男長女)高橋友也(須郷・正二男)【秋季】八嶋篤(時雨山・孝一郎二男)畠山良子(寺田・忠雄二女)小松伸(下小路・一郎長男)畠山明広(大吹川・友雄長男)畠山俊明(寺田・俊雄長男)小松大(下通・鉄朗長男)

ありがとう

三沢市大火寄附

去る1月11日の三沢市の大火に対する義援金をお願いしましたところ、30,255円という沢山のご寄附をいただき、2月4日日赤県支部に送金いたしました。ご協力に対し深く感謝いたします。

出稼だより

離れて知る村の発展

昨年役場職員が手分けをして調べた結果によると、村の出稼者は12月20日現在で次のようになっています。

出稼者総数、552、内訳、世帯主201、あとつぎ292、その他29内女39。
部落別、蔵39・老方73・法内71・宿杉森85・館合130・田代60・黒淵94

村では12月29日にこの方々全員に村報を発送いたしました。が、多数の方々から心のこもったおたよりをいただいておりますが、その中から大琴出身の阿部重左工門さんのものをのせることにいたします

東由利村長殿

新年おめでとうございます。

今年もよい年であられますよう心からお祈り申上ます。この度は私共のために村報をお送り下され厚くお礼申し上げます早速読んで見て過去の一つ一つを考えて見る時村長さんが就任以来我が村の発展は目ざましいものだと思い心新たに致した次第です。

何よりも我が大琴橋の永久橋化、これは私身をもって体験したことで、大雨ともなると自分の田圃の心配もなげすんで、橋の流れるのを防ぐため、自動車を頼んで役場の水防倉庫から資材を借りて処置するなど永年にわたる部落民の心配や苦労が、今では一掃されて立派な橋となったこと

は心からなる安心とよろこびに堪えません。

村には豊富な資源がありながら、宝の持ち腐れで今迄何も出来なかったと思うのは私だけではないと考えます。

しかし今では本荘市を境に下は畑村より西久保まで永久橋の姿が見られ、水害の心配もなく村民はみなうれしく感じていると思います。

村には種々の事業があるにもかかわらず、昨年は農業の近代化をはかるため構造改善事業に取組まれ、多忙な身をもって大変御苦労様と存じます。今年こそ立派に基盤整備の出来ることを祈ります

次に今年我が村からの出稼者は実に600余人との事です。私共も家族と別れて村から離れるのは非常につらいの

です。村の資源も年々成長して来ますが、冬期の仕事としては林業に頼るより外ありません。これも機動力によって人手は余る一方となり吹雪の中で休みの多い郷里を出て現金収入を得て、少しでも家のため村のために、助かるように努力する考えです。

その反面村の整備が出来ると思わらず農業の共同化が実現されるものと思います。その時に備えて作業の共同化と団結の精神を養う道場としての出稼を活用するため、近所の同志20余人と共にこの10年来努力をつづけている次第です。何卒留守中のことはよろしく願いいたしますと共に、今後のご指導もあわせてお頼みいたします。